

WEEKLY REPORT

一宮中央
Rotary



2021～2022年度 RIテーマ
奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために
地区活動方針「チェンジロータリー 新時代への成長に！」
～コロナゼロ・カーボンゼロ支援～

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

THE ROTARY CLUB OF ICHINOMIYA CENTRAL

●創立1990年10月31日 ●承認1990年11月16日 ●事務局 〒491-0858 一宮市栄4丁目6番8号 一宮商工会議所ビル5F
●例会日時 毎週水曜日(PM 6時～7時) TEL 0586-24-1959 FAX 0586-71-4390
●例会場 一宮商工会議所ビル3Fホール E-mail: icrc@alpha.ocn.ne.jp URL: http://www.138crc.com
◇会長 尾関一之 ◇会長エレクト 秋田敬治 ◇副会長 内田泰潤徳 ◇幹事 野田義広 ◇クラブ会報委員長 鵜飼俊光

令和4年4月20日(水)

第1459回(当年度第34回)例会

本日のプログラム

クラブアッセンブリー
地区研修・協議会報告

第1458回例会(当年度第33回の記録)

□令和4年4月13日(水) 18:00～19:00

□会場 一宮商工会議所ビル3Fホール

□開会の点鐘 尾関会長

□ロータリーソング「我等の生業」

□会長挨拶

尾関 一之



本日のお客様のご紹介を申し上げます。株式会社秀農業 代表取締役 加藤秀明様です。後ほど、加藤社長には「いちごで世界を豊かにします」と題しまして卓話を頂きますが、よろしくお願い申し上げます。

さて本日5時より第10回目の理事会が開催されました。残りの任期もあと2か月半となりました。ここまでこれたのも、理事役員、クラブ会員の皆様のおかげと感謝申し上げます。残りの行事として一泊親睦旅行を計画いたしております。現在19名の参加申込を頂いております。沢山の会員のご参加をお願い申し上げます。また米山奨学会の寄付のお願いの時期が参りました。私と野田幹事、大塚委員長と調整させていただいておりますが、会員皆様のご協力いただきますよう、お願いいたします。本日も感染予防には十分にご留意され、例会をお楽しみいただきますようお願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

出席 報告	会員総数	41名	73.17%
	出席会員数	30名	
	他クラブ出席数	0名	100%
	修正出席率	前々回(3/30)	

ロニコボックス(ABC順)

☆理事会一同

☆井上雅樹君

☆松前憲典君

イチゴの話期待しています。初夏の季節を感じさせます。今日は「いちごで世界を豊かにします」と題して、加藤秀明様スピーチを楽しみにしております。

☆松本正暢君

☆宮田浩二君

☆森俊一郎君

加藤様、本日の卓話楽しみにしております。よろしくお願い致します。

健康第一。本日は、暑いですね。

白内障の手術をしました。皆さんの顔がくっきり、ハッキリ見えます。

☆永田 正君

加藤様、御多用の中、ようこそお越し下さいました。本日は、卓話宜しくお願い致します。

☆野田義広君

加藤秀明様ようこそおいで下さいました。卓話「いちごで世界を豊かにします」よろしくお願いします。

☆大塚省治君

こうさん、ありがとうございます。これで腕もあがれば最高です。

☆尾関一之君

加藤様、本日は卓話、宜しくお願いします。

☆佐藤祐造君

コロナ感染症患者増加傾向です。ワクチン3回目、できるだけ接種しましょう。重症化予防にも役立ちます。

☆鵜飼俊光君

加藤さん、いちごの話を楽しんで聞かせて頂きます。



2022. 4. 17 (日) 2022～2023年度地区・研修協議会
名古屋国際会議場にて



株式会社秀農業 代表取締役 加藤 秀明様



「いちごで世界を豊かにします」
いちのみやいちご研究所

コロナ禍の中、取り組んでいること

1、いちごの低コストハウス建設

→単位面積1000㎡あたりの投資額600万円（通常1200万円かかる）

1-1中古ハウス移築（生かし解体）

1-2ハウス内部装備に低コストの韓国資材活用

1-3自社スタッフでの施工

2、直販方式採用

2-1弊社の所在地愛知県一宮市は名古屋から15kmで車で15分と通勤人口が多く、市街地と調整区域の境で住民が多い、愛知は同居家族が多く孫がいるアクティブシニアがいちごの主顧客層、車社会で爆買い
2-2 農地プレハブを置いて2年前に直販を始めたが行政指導を受けて撤去、昨年コロナ補助金使い移動販売車導入、都市部を目指さず、シニア層が居る田舎部へいちごを売りに行く。

2-3 イチゴ狩りのような高設栽培ではなく、土耕栽培方式を採用、濃尾平野の肥沃な河川土壌、土を作りイチゴを作る、また完熟収穫でおいしい。

2-4 農業ハウスは化石燃料を使っただけの加温はせず、布団で保温しエコ、成長はゆっくりだがおいしさ追求。

3、その他

3-1 ICT機器導入、温度と湿度とCO2と土壌水分の見える化で複数スタッフでも同一の生育管理

3-2 多様な人材/高齢者/女性/副業者/起業家の雇用、アフリカ人研修生、独立希望者受入

3-3 ブランド作り「いちのみやいちご研究所」（品種、スイーツ店舗、リキュール輸出、技術指導など）
これからやること

1、スイーツ店開業（本年4月）

1-1取引先であった神山のケーキ屋さんを継承。

2、新ハウス建設（時期未定）

2-1現在生産量が年間6トン。3トンくらい積み増したい
2-2農地を探しています、どこか候補があれば教えてください

3、ブランド展開

3-1パリでお店開きたい（アフリカへの拠点作り）

3-2過去技術指導でかかわったイチゴの生産地すべてでスイーツ店を作りたい（台湾、上海、四川、広西、香港、フィリピン、オーストラリア、ブルキナファソ）

なぜアフリカ／ブルキナファソ

西アフリカ唯一のいちごの生産／輸出国

1970年代後半ごろからいちごの栽培が行われている、首都近郊で20-30トン程度の生産量

今後の市場の経済成長に伴い需要の増加が見込まれる近隣国の大都市にてフランス産、モロッコ産との競合

にさらされており、品質改善、梱包改善、安定供給が求められている事情がある

品種はフランスのセルバ種が主だが日本のとよのか種もある、10月定植で12-翌4月収穫、価格は冬600円-春200円/kg

予算名称	上限（対象）
中小企業海外展開	850万、3000万、1億
支援事業	（中小企業等）
草の根技術協力	3000万（地方自治体）
見返り資金協力	1200万（現地政府）

JICA中小企業海外展開支援事業案件化調査

ブルキナファソ国の開発課題

- ・生産しているイチゴ品種特性を把握できず、生育／肥培管理や病害虫対策ができていないこと
- ・栽培技術が非効率でイチゴの生産性が極めて低いこと

- ・収穫時の技術不足による商品歩留まりの悪さ

秀農業の技術・製品

- ・ポット育苗システムでのイチゴ育苗
- ・高設プラントでのイチゴの栽培

調査を通じて提案されているODA事業及び期待される効果

- ・イチゴ苗の安定供給
- ・収穫時期の長期化、収穫量の増大
- ・招へい研修による、イチゴに関する人材育成ならびに市場志向方農業への意識付け

日本の中小企業のビジネス展開

- ・日本の育苗・生産技術等を含む農業設備プラントの輸出
- ・現地へ投資し、パッキングセンターや販売会社を設立し、包装イチゴのスーパー等への販売・輸出

なぜアフリカのインターン活用

アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（通称ABEイニシアティブ）

アフリカの優秀な政府系人材を日本の大学院に生活費含めて無料で留学させてあげて、今後自国に帰った時に日本政府や企業進出時の架け橋人材になり、将来彼らが出世した時には国際会議の場で親日国として振る舞えるよう日本外務省の長期プロジェクトに期待したい。

毎年夏に2週間の企業研修受入、春から3カ月の研修受入を行っており、秀農業では2019年にナミビア、マダガスカル、ガンビア、2020年モザンビーク、エスワティニ、セネガル、ブルキナファソ、2021年コモロ、ブルキナファソの計8か国から研修受入をしている。

英語ができるスタッフがいて、自社の農業経営に技術的・経営的特徴があって、30年くらいのスパンで考えてアフリカに進出することを考えるのであれば参加してみる価値あり

今後アフリカに注目が集まると思われるが、どの国にも農業が存在し、想像以上に若い世代の急成長に期待したい。

ご清聴ありがとうございました。

2022年4月27日 休会（定款7-1d）
2022年5月4日 休会（みどりの日）

次回 2022年5月11日（水）の例会予定

卓話

「一宮RAC再生に向けて
（大学基盤RACとは）」
地区ローターアクト委員会 委員長
津曲修一郎様（名古屋南RC）